



# うもれ木

魚津埋没林博物館広報誌

第19号

発行日：平成15年11月30日

編集発行：魚津埋没林博物館

印刷：魚津印刷(株)



妙なところで お会いしますね

岩と砂に囲まれて、淡いオレンジ色の花がポツンと一輪。高原を代表する花として知られているニッコウキスゲ(ゼンテイカ)です。富山県内では、おおむね標高1500～2500mの草原に群生することが多い植物です(右の写真)。しかし、上の写真を撮影したのは、標高750mの川原。種子が流れ着いてたまたま生えただけ、と言ってしまえばそれまでですが、周囲を調べると、ニッコウキスゲ以外にもおかしなメンバーがぞろぞろと…続きは本文の中で。



僧ヶ岳仏ヶ平(標高1800m)



## 川原に高山帯の植物が!?

学芸員 石須秀知

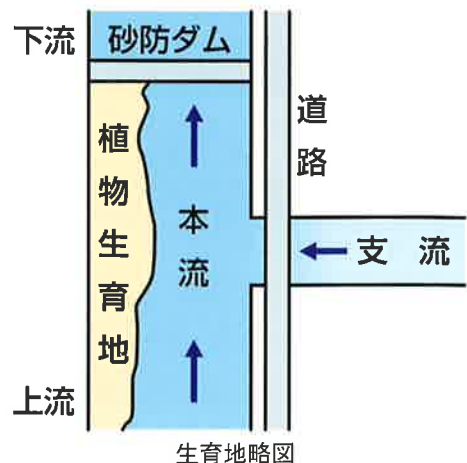
魚津埋没林博物館では、調査研究の一環として、魚津市内の植物相調査を行っています。今年7月、市内を流れる川の上流へ調査に行ったところ、表紙写真のニッコウキスゲ(ユリ科)が目にとまりました。標高はおおよそ750mです。表紙で述べたように、ニッコウキスゲは、富山県内ではおもに標高1500m以上の高原に生育する植物です。この川の源流の山岳にもニッコウキスゲの生育地があるので、種子などが流れてきて偶然生育したと考えられます。

偶然とはいえ、このような場所でニッコウキスゲが生育しているのは珍しいので、周辺を少し調べてみました。すると、ニッコウキスゲ以外にも、高地に生育するはずの植物が続々と見つかりました。見つかったのは、オンタデ(タデ科)、ミヤマキンポウゲ(キンポウゲ科)、カライトソウ(バラ科)、ミヤマアカバナ(アカバナ科)、タテヤマウツボグサ(シソ科)、ミヤマオトコヨモギ(キク科)、ヒロハノコメススキ(イネ科)、アシボソスゲ(カヤツリグサ科)、キンチャクスゲ(カヤツリグサ科)、ヒメスゲ(カヤツリグサ科)などです。これらは、おもに標高2000m付近からそれ以上の亜高山帯から高山帯でよく見られる植物たちで、普通は標高750mの川原で出会うことを誰も期待しません。ただし、この川の源流には、これらの植物の生育地である、標高2000~2400mの山岳地帯があります。そのため、1種類や2種類なら、たまたま種子や根茎などが流れ着いて生育することも考えられます。実際、今までにもこの流域では単発的にアシボソスゲやミヤマアカバナなどが、1000mより低い標高帯で見つかっています。しかし、

今回のように、10種類以上も集合しているのは見たことがありませんでした。

これらの植物の構成をもう少し詳しく見ると、同じ高地性の植物でも、ニッコウキスゲやミヤマキンポウゲなど草原を好む植物と、オンタデやミヤマオトコヨモギなど砂礫地を好む植物とが入り混じっています。言わば、高地性植物の寄せ集めといった印象です。どのような力が働いて、これらの植物がこの場所に寄せ集められたのでしょうか。

ここで、周辺の地形を観察してみましょう。この場所では本流の右岸側から大きな支流がほぼ直角に合流しています。そして、これらの植物たちが生育している場所は、本流の左岸側の狭い川原です。そこは、通常時は水の流れているところより0.5~1mぐらい高くなっているため、大雨が降って増水した時以外は水をかぶることがありません。さらに、この場所の下流側には砂防ダムがあり、川の傾斜が緩やかになっています。



そこで、次のようなストーリーを考えてみました。大雨が降ると、山の上にある草原や砂礫

地から土砂が流出し、それが入り混じって谷に流れ込みます。そのとき、土砂に含まれる植物の種子や根茎なども一緒に流されると思われれます。その土砂が、増水した川を流れ下り、標高の低い場所まで運ばれます。障害がなければ、高地の植物の種子は、生育に適さないずっと下流の低地まで運ばれてしまいます。ところがこの場所では、右岸から直角に交わる支流の流れが土砂を対岸へ押しやり、砂防ダムの効果も重なって左岸側に土砂が積み上げられます。そして、植物の種子や根茎なども土砂と一緒にこの場所に埋め込まれ、寄せ集めの植物群となって花を開いたのではないのでしょうか。谷間の川沿いなので、真夏の気温も高地の植物が耐えられる程度に保たれているかもしれません。

さて、このストーリーが正しいかどうかはまだ分かりません。このような現象が、この川沿いの他の地点や、他の河川でも見られるのかどうかも調べ、共通する要素を探り出す必要があります。

しかし、一つははっきりしていることがあります。それは、この植物群もこの場所では長く定着することができないだろうということです。次の大規模な増水があれば、この場所の土砂が攪乱され、植物の大半が流れ去ったり埋められたりして姿を消すでしょう。また、仮に何年間も増水がなく安定した状態が続けば、今度は樹木が生育してこれらの植物の生育場所を奪ってしまうでしょう。どちらにしても、再び大きな増水が起きれば、次の新しい種子を含んだ土砂がこの場所を覆い、また違った植物が生育するかもしれません。

数年後、この場所でどんな植物が花を咲かせているのでしょうか。しばらくは目が離せない場所になりそうです。



オンタデ



タテヤマウツボグサ



ミヤマオトコヨモギ



アシボソスゲ



## シリーズ

## 埋没林の仲間たち ⑱

## イヌタデ属 (タデ科)

秋の道端などで、ピンク色の粒が穂になったイヌタデをよく見かけます。ままごと遊びでこの粒を集め、ご飯(赤飯)の代わりにすることから「アカマンマ」の呼び名で親しまれています。イヌタデの花には花弁がなく、ガク片がピンク色をしています。花が終わるとガク片が閉じて果実を包みますが、ピンク色のままなので、いつまでも花が咲いているように見えます。花が終わっているものは、指先でもみほぐすと、中から黒い実が出てきます。イヌタデという名



イヌタデ

前は、辛味がなくて役に立たないタデという意味です。このほかイヌタデ属の植物には、ヤナギタデ、サクラタデ、ハナタデ、オオイヌタデなど多くの種類があります。



サクラタデ

\* \* \*

現在の魚津市内では、平地から山地にかけて、10～20種類程度のイヌタデ属植物が自生しています。

魚津埋没林では、平成元年の発掘調査でイヌタデ属の花粉が検出されています。

## お知らせ

## ●平成15年度これからの行事予定

## ☆企画展示

魚津の美しい自然と祭写真展 — 11月18日～12月25日

魚津ナチュラルギャラリー④ — 1月2日～3月31日

※企画展の詳細は下記までお問い合わせください。

## ご利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
- 休館日 12月～3月の月曜日、祝日の翌日、年末年始(4月～11月無休)
- 入館料 ・大人(高校生以上)・・・510円 ・小中学生・・・250円
- 交通 ・JR北陸本線 魚津駅 } 下車1.5km (タクシー・・・5分)
- ・富山地方鉄道 新魚津駅 } (徒歩・・・25分)
- ・北陸自動車道魚津ICから3km車で10分

## 特別天然記念物 魚津埋没林博物館

〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂814 ☎(0765)22-1049  
 ホームページ <http://www.city.uozu.toyama.jp/nekkolnd/>  
 e-mail [nekkolnd@city.uozu.toyama.jp](mailto:nekkolnd@city.uozu.toyama.jp)

